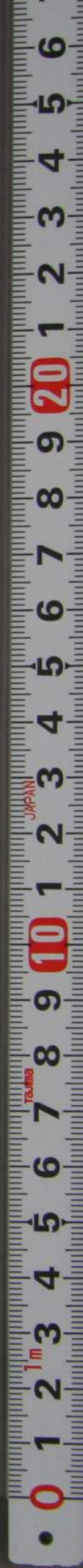


藤田一郎校正

大日本勸農義社規則

4404



114
1095



大日本勸農義社規則條款目次

大正十一年四月贈
隈侯爵邸寄

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or title, including the characters "勸農義社".

Large handwritten characters, likely "勸農義社" (Kōnō Gisei Sha).

第十款

從細第十一條目第十一款至細第十四條目第十六款

東京勸農義社

正信

正信

正信

正信

正信

正信

正信

正信

正信

正信

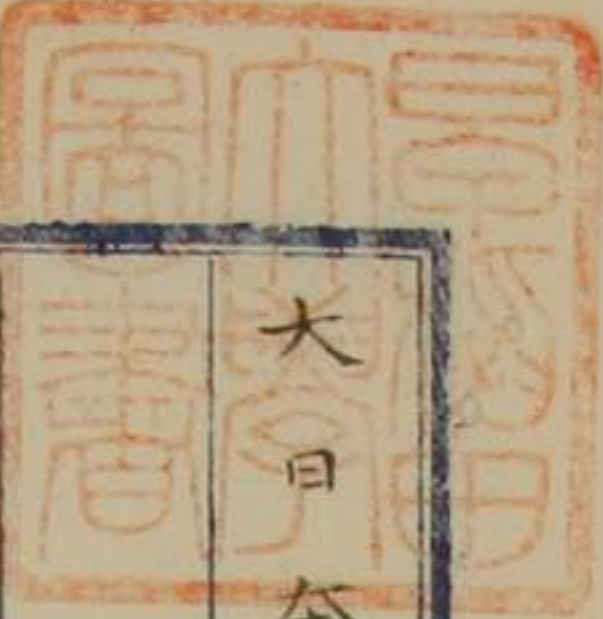
大正十一年四月贈

第十款

從細第十一條目第十一款至細第十四條目第十六款

東京勸業義士

414
A 1095



大日本勸農義社規則條款目次

第一章 總則

從綱第一條至同第七條

第二章 社之主義

從綱第八條目第一款至目第十款

第三章 社之年限

從綱第九條至同十條

第四章 社之位置

從綱第十一條目第一款至綱第十四條目第十六款

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

東京勸農義士

大日本

第五章 資本之性質

從細第十五條目第十七款至細第十七條目第廿五款

第六章 社員之性質

從細第十八條至同第十九條

第七章 役員并職員撰舉

從細第二十條至同第廿二條

第八章 會議并議負撰舉

從細第廿三條至同第三十條

第九章 社員之權利及責任

從細第卅一條至同第卅七條

第十章 社之業務

從細第卅七條目第廿六款至細第四十五條目第卅九款

外則

第一章 本支社設立順序

從第一條至第四條

第二章 義捐義集徵集順序

從第五條至第八條

合第五十三條第卅九款

千義集金ノ利子年八朱ヲ每歳保除セラレ
以テ当社ノ目的ヲ達スルヲ得セレム

第三條 第二條ノ如ク当社ハ我政府ノ特別
ナル保護ヲ受クルヲ以テ当社ノ社負及ヒ
役員ハ誓テ当社ノ規則ヲ確守シ以テ当社
ノ盛大ヲ圖ルヘシ

第四條 当社ノ役員ハ本支社正副社長共社
員中ヨリ投票人撰ヲ以テ公撰シ而シテ政府
ノ認可ヲ得ルモノトス

第五條 第四條ノ如シト雖モ目下創業ニ属

シ社務百般政府ノ保護ヲ受クルニ非レハ
結局当社ノ目的ヲ達スル能ハサルヲ以テ
創業三ヶ年間ヨリ開業起算ス日農商務卿ノ特撰
ヲ仰キ各支社ハ地方長官ノ特撰ヲ仰クモ
ノトス

第六條 第五條ノ如シト雖モ本支社確立ノ
上ハ三ヶ年ヲ経過セサルモ公撰ニ復スヘ

第二章

社之主義

第七條 当社ハ直接ノ事業ヲ為サズ起業者

入資カヲ補助スヘキ貸付金ヲナス

但時宜ニ因リ第卅八條第ニ部ノ業務ヲ
直接ニ執行スルヲアルヘシ

一 細目 第一款 起業者ハ第卅八條第一部

第一類ヨリ第十二類迄ノ事業ヲナサシ

トスル者ヲ指ス其貸付金ハ第卅九條第

廿六款ヨリ第四十二條第卅九款迄ノ手

續ヲ以テス

一 第二款 当社ノ直接ニ執行スル業務ハ

第四十五條ノ如シ

第八條 当社ハ補助金ヲ貸與シタル事業者ニ

對シ補助金貸與中ハ其事業ヲ監督スル

権利ヲ有スルモノトス

一 細目 第三款 当社役員幹事中ニ監督掛

何名^{定員}ヲ置キ左ノ権限ヲ與ヘテ監督

セシム第一起業者ノ事業着否第二起業

者ノ勤惰第三事業ノ工拙第四事業後來

ノ目的第五金負出納帳簿ノ検査

一 第四款 第一款ノ監督権限ハ幹事自ラ

巡回シ或ハ其土地郡區長及ニ其町村ノ

戸長ニ依頼シ監督ス

一 第五款 起業者其精神ヲ励マシ其業ヲ

工ニニシ而シテ天時ノ災害風火災或ハ流行病等ノ者ヲ

云ニ罹リ其創業ノ目的ヲ蹉跎セシムル

者ハ更ニ何分ノ資本ヲ増償シ元貸付金三ノ公ノ一

増償セシムルハ其目的ヲ達セシム

一 第六款 第五款ノ場合ニ於テ其主任ノ

者死亡或ハ廢人トナリ其事業ヲ採ル能

ハサレハ元保証人或ハ親族ノ者ニ於テ

其事業ニ堪ユル者アレハ元人ノ如ク取

扱フヘシ

一 第七款 保証人親族ニ其人ナキニ於テ

ハ其償付金ヲ償還セシム

一 第八款 第三款第一ノ件ハ約定期限ヲ

經過スルモ事故ナク事業ニ着手セサル

者ハ稽責ヲ加フ第二ノ件怠惰スル者之

レヲ勸奨ス其勸奨ヲ容レサル者ハ償付

金ヲ償還セシム第二ノ件事業ノ拙ナル

者ハ其改良輕便ナル法ヲ教テ第四ノ件

後來ノ目的ヲ失スルモノハ償還ヲ命ス

一 第九款 第三款ヨリ第八款迄ノ件款ニ付監督者ノ疎漏ヨリ其事實ヲ探究スル能ハス社員或ハ社外ノ者ヨリ当社ニ向ケ忠告スル者アレハ其事實ヲ探索セラ実ヲ得レハ前款ニ同シ

一 第十款 監督者事業者ノ善事ヲ發見シ故意ヲ以テ社長ニ告ケス或ハ惡事ヲ知テ事業者ノ賄賂ヲ受ケ隱蔽スルニ於テハ共ニ其役ヲ免ス其事重大ニシテ法律

ニ觸ル、ニ於テハ社長ヨリシテ法律官ニ訴ヘ處分ヲ請フヘシ

第三章 社之年限

第九條 当社ハ農事ト共ニ永遠繼續スルモ

ノトス但シ初年ヨリ十五ケ年間開業当日ヨリ起算ス

ヲ以テ第一期トシ順次之レニ做フヘシ

第十條 社員ノ退社義集金ノ割返シハ該期

ノ終リニナスモノトス

但シ入社及ヒ義捐金義集金ノ増加ハ期

中有志者ノ隨意タルヘシ

第四章

社之位置

第十一條 本社ヲ東京ニ置キ大日本勸農義社ト稱シ全國有志者ノ興起スルニ隨ヒ漸ク盛大ナラシメ支社ヲ設置シ地名ヲ某府縣勸農義社ト稱ス支社又分社或ハ出張所ヲ設ケ某府縣某郡區勸農義社或ハ出張所ト稱ス

一 **細目** 第十一款 当社ノ業務ハ人民直接ノ業務ナルヲ以テ成ルヘク支社ハ分社ヲ各所ニ設置スルヲ善トス然レモ其資

本ノ都合ニ因リ經費ノ多端ヲ防カシカ
 為メ左ノ制限ヲ定ム第一款 支社ハ資本金
 五万円以上分社ハ二万円以上
 第二款 支社ハ一府縣一ヶ所ニ限ル
 分社出張所ハ地方ノ適宜ニ任ス
 第三款 第十一款ノ資本ニ滿タサル
 地方ハ支分社共設置スルヲ得ス其間々
 其地方ノ有志者ハ本社ニ入社セシメ該
 地方有志者ノ興ルヲ俟テ設置スヘシ但
 シ時宜ニ因リ本社ノ出張所ヲ設クルヲ

アルヘシ

一 第十四款 分社ハ分社長ヲ置キ出張所
ハ事務長ヲ置ク但シ時宜ニ因リ支社長
兼勤スルモ妨ケナシ

第十二條 本社ハ全國ノ各支社ヲ總監シ支
社ハ分社ヲ總監ス

第十三條 本社ハ農商務省支社ハ地方廳ノ
監督ヲ仰ク

一 細目第十五款 監督ヲ仰クト云フ者ハ
正副社長ノ勤惰金負出納ノ亂否及ヒ金

負出納簿ノ検査等ナリ正副社長懶惰ナ
レハ譴責ヲ受ク用ヒサレハ之レヲ議負

第十二報シ其職ヲ解カル金負出納亂ルモ又
同シ

一 第十六款 第五款ノ外ハ当社役員及ヒ

業務中猥リニ左右セラレサルモノトス

第十四條 支社ハ必ス本社ノ社則ヲ確守シ

業務ヲ執行スルモノトス然レモ土地ノ寒

暖事業ノ得失モアレハ其細則ニ至テハ各

地適宜ニ斟酌シタルモノヲ設クルヲ得ハ

但レ細則ヲ設クル毎ニ其細則ヲ添へ本
社へ届ケ出ツヘシ

第五章

資本之性質

第十五條 当社ノ資本金ハ有志者ノ義捐金
及ヒ義集金トニ成リ我政府ハ保險ヲ得タ
ルモノナリ

第十六條 義捐金ハ多少十錢以上何百何ヲ
論セス之レヲ納レ領收券ヲ發シ義集金ハ
壹口拾四ト定メ証券記ヲ發行ス毎年一月

七月會議ヲ開キ會計ヲ詳報シ義捐金ハ之
レヲ永久社金トシ義集金ハ年一割ノ利子
ヲ其証券金高ニ配当スルモノトス
但シ義集証券券讓渡及ヒ賣買ハ券主ノ意
見ニ任ス

一 細目 第十七款

義集金へ年一割ノ利子

ヲ配当スルハ左ノ理由ヲ以テス第四十
條及ヒ第四十二條ノ成規ヲ以テ起業者
ニ貸付ケ其五朱ノ者ヲ以テ社費ニ充テ
剩レル二朱ニ政府ヨリ保險セラルハ

朱ノ者ヲ加ヘテ配当スヘシ

一 第十八款 義集金主死亡或ハ居住移轉

ハ其都度届ケ出テ死亡スル者ハ其家續

ノ名ニ改メ移轉スル者ハ其土地番号ヲ

朱ニテ書換ゴヘシ

一 第十九款 証券紛失或ハ盗難ニ罹ル者

ハ其旨ヲ認メ二名以上ノ保証人ヲ以テ

届ケ出ツヘシ其事實慥カナル者ハ更ニ

証券ヲ與ヘ社員ニ廣告ス若シ散見スレ

ハ其旨ヲ届ケ出テ新証券ヲ再收シ之ヲ

破棄シ社員ニ廣告ス其都度郵便税及ヒ

証券元紙料ヲ拂ハシムヘシ

第十七條 当社ノ經濟ヲ二途ニ分ケ一ハ社

本支社之レヲ異ニシ一ハ

之ヲ均フレ以テ大ニ金員ノ運轉ヲ便ニス

一 **細目** 第廿款 社費ハ第十六條第十七款

ノ主義ヲ以テ本支分社共之レヲ異ニシ

貸付金ハ尤ノ運轉ノ便ヲ開ク甲縣ノ義

社ハ資本豊カナルモ起業者ナク乙縣ノ

義社ハ起業者アリト雖モ資本乏シト此

場合ニ於テ甲義社ノ資本ヲシテ乙義社ニ貸付スヘシ

一 第廿一款 甲乙資本ノ運轉ハ甲乙直接ニ懇議照會スヘシ若シ甲乙共運轉スル資本非レハ其欠乏スル社ヨリ本社ニ報スヘシ本社ハ此旨ヲ各義社ニ照會シ其欠乏スル社ニ媒スヘシ其実費ハ請求スル社ヨリ出スヘシ実費トハ為換料或ハ電報料等ヲ如シ請求スル社ハ其金ヲ貸付タル起業者ヨリ出サシムヘシ

一 第廿二款 運轉金ノ利子ハ請求社ヨリ應求社ヘ收ムヘシ又其貸付金ニ関スル実費ハ其金ヲ貸付シタル起業者ヨリ出サシムヘシ

一 第廿三款 本社資本ノ都合ヲ以テ本社ヨリ其請求社ニ貸付スルコトアルヘシ

一 第廿四款 本社ヨリ各支社ニ對スル実費ハ毎歳一月七月ニ償還セシムヘシ其償還科目ハ左ノ如シ支社ヨリ臨時巡回及ヒ派出ヲ本社ヘ請求シタル時支社ノ

為ノニ人ヲ四方ニ馳セシメタル時
一 第廿五款 本社ヨリ支社保護ノ為メ定
期巡回派出ハ第廿四款ノ限ニ非ス

第六章 社員之性質

第十八條 当社ノ社員ハ第一條ノ性質ナリ
然レモ義捐金五円以上義集金拾円以上ヲ
出セル社員ニ非レハ第廿二條第廿三條ノ
權利ヲ有セサルモノトス
但シ單ニ義捐金ヲ出スニ止マリ其出金
五円以上ノ者ハ之ヲ賛成社員ト称ス

第十九條 義集金ハ一人ニシテ數口ヲ有シ
數人ニシテ一口ヲ有スルヲ得ヘシ數人
ニシテ一口ヲ有スル者ハ數人中ヨリ一名
ヲ撰ヒ券主ト為スヘシ

第七章 役員并職員撰擧

第廿條 本支社役員及ヒ其職務ヲ定ムルヲ
左ノ如シ

社長 一人

本社ノ役員ヲ統轄シ規則ニ從テ社務ヲ
總理シ百般其責ニ任ス

幹事補以下ノ進退ヲ專行ス

議按ヲ議負ニ付ス

副社長 一人

社務ヲ参判シ其責社長ニ亞ク

社長不在ナレハ代理ス

幹事 自一等至三等事務ノ繁閑ニ應シ増

減ス

社長ノ公課ニ應シ業務ヲ幹理ス

本社ノ幹事ハ支社ノ長ト為リ支社ノ幹

事ハ公社ノ長トナルヲ得

幹事補 自一等至五等事務ノ繁閑ニ應シ

増減ス

幹事ヲ輔ケ其及ハサルヲ賛補ス

本社ノ幹事補ハ支社ノ副社長支社ノ幹

事補ハ公社ノ副社長トナルヲ得

主計 何名 幹事中ヨリ撰定スヘシ

會計ヲ司リ出納ヲ詳明ニシ定期決算書

ヲ調成ス

算生 何名 事務ノ繁閑ニ應シ増減ス

第廿一條 社長副社長幹事主計共 創業第五

條ノ如シ幹事補以下ハ社長ノ特撰ヲ以テ
社員中ヨリ之レヲ採ル

第廿二條 本支社役員ハ創設年滿五年ヲ任
期トシ毎半期其半数ヲ改撰ス

第八章 會議并議員撰舉

第廿三條 社員中ヨリ議員ヲ撰舉ス議員ハ
會議ヲ開ヒテ業務ノ得失利害ヲ議定ス

但シ社員五十名毎ニ一名ヲ撰舉ス

第廿四條 議員中ヨリ復撰シテ若干名ノ常
議員ヲ撰定ス但議員五名毎ニ一名ヲ撰

第廿五條 常議員ハ會計出納ノ報告書ヲ檢

査ス

第廿六條 議案ハ議長之レヲ散ス但シ議員

中建議案アル時ハ五名以上ノ賛成者ヲ得

テ之レヲ議題トナスヲ得

第廿七條 會議ニ常會アリ臨時會アリ議員

ニ常議員アリ議員アリ期ヲ刻シテ會スル

ヲ常會トシ不時ニ會スルヲ臨時會トス常

會ハ総議員會同シ臨時會ハ常議員會同ス

第廿八條 議員ハ若干名ヲ以テ定員トシ常

議負ハ若干名ヲ以テ定負ト定ム
第廿九條 議負ハ撰舉組合ヲ定メ投票ヲ以
テ撰定ス議負常議負共滿五年ヲ一期トシ
毎半期其半數ヲ改撰ス当初半期ノ解任ハ
抽籤ニ依ルヘシ

但レ何レモ再撰セラレヨリ得

第三十條 會議ハ社長之レカ議長タルヘシ

第九章 社員之權利及責任

第卅一條 社員及ヒ賛成社員ハ当社ノ役員
業後年限ハ創後議負ノ撰被撰權ヲ有ス

第卅二條 社員及ヒ賛成社員ハ何時ニテモ

會計出納帳簿ヲ閱覽スルヲ得ヘシ

第卅三條 義捐金千圓以上差出シタル賛成

社員及ヒ義集金二千圓以上ノ証券ヲ有ス

ル社員ハ臨時會ヲ請求スルノ權ヲ有ス

第卅四條 一人ニシテ義集金五十圓以上ノ

証券ヲ有スル社員二十名以上連署スルハ

臨時會ヲ請求スルノ權ヲ有ス

但レ一人ニシテ義捐金一圓以上出セル

社員千名以上連署スル時ハ本條ニ同シ

第卅五條 義捐金廿五圓ヲ出セル賛成社員ハ義集金五拾圓ノ証券ヲ有スル社員ト其權利ヲ均フス

第卅六條 当社々員ハ有限責任トシ本社萬一ノ損失アルモ義集金ニ止メ各自ノ他ノ財産ニ及ハサルモノトス

第十章

社之業務

第卅七條 当社ノ業務ハ實地ノ得失緩急ヲ考量シ其緊要ナルモノヲ先トシ漸次其資力ヲ補助スヘシ

第卅八條 事業ノ部門ヲ分チ九ノ數類トス

第一部

第一類

荒地起復原野開墾

第二類

土地ノ改良

第三類

牧畜

第四類

種子苗木ノ撰擇及配布

第五類

蔬菜及有益著大ナル植物ノ栽培

第六類

溝洫樋堰溜池ノ修理

第七類

肥料及農牛馬買入

第八類

農法ノ改良肥料ノ製造

第九類

製茶製糖絹綿、紡績并ニ機織

第十類

養魚殖貝捕魚採藻

第十一類

山林栽植

第十二類

第一類ニ係ル道路橋梁及ニ堤防排水

第二部

第一類

農學生徒教育

第二類

内外農事通信

第三類

農業雜誌及報告

第四類

農具製作

第五類

農学舎密

第六類

農談會及共進會

第七類

精農賞與

第卅九條

第卅八條第一部ニ属スル名類ノ

業務ヲナス者ハ八年七朱ノ低利ヲ以テ貸

付金ヲ行ヒ不動産耕地地宅及ヒ公債証書ノ抵

当ヲ徴スヘシ

一 細目 第廿六款 第卅九條ノ貸付金ヲ行

フニハ九ノ件々ヲ定ム第一起業者ノ身

元及ヒ其槩畧ナル履歴ヲ取調フ第二起

業ノ豫算表ヲ徴シ全達ノ目的ヲ問フ第

三親族及ヒ戸長ノ保証ヲ徴シ抵当物ノ
確否ヲ検査ス

一第廿七款 起業者ノ身元確實ナラサル
モ親族保証人ノ身元慥カニシテ其抵当
ヲ出スニ於テハ貸付スルコトアルヘシ

一第廿八款 貸付金ノ抵当價格ハ貸付金
ノ三割ヨリ超過スヘカラス

一第廿九款 抵当物ハ起業者ノ耕地宅地
山林共券面記載ノ地價ニ非スレテ該地
實際賣買ノ價ナリ

一第三十款 抵当物ノ鑑定ハ實際当社ノ
行届カサルモノナレハ起業者ノ親族又
ハ本人ノ縁由アル者ニ鑑定セシメ鑑定
者何某ノ明文ヲ記載シ共ニ証書ニ調印
セシメ貸付金償還ノ責ヲ負ハシム

一第卅一款 一事業ニシテ起業者數人ナ
レハ連借ノ法ニ因ル又其内一二名若ク
ハ五六名ニシテ抵当物ヲ所有シ貸付條
款ニ背カサレハ一二名或ハ二三名ト雖
モ妨ケナレ

一 第卅二款 起業者誠心アリ当社貸付ノ
部門ニ因リ事業ヲ起シ産ニ訖ント希望
ス然レモ抵当ノ当ルモノナレト云フ場
合ニ於テハ本人親族ニ於テ抵当物ヲ出
シ償還ノ責ヲ負ヒ連借スルニ於テハ貸
付スヘシ

第四十條 第卅九條ノ貸付金ハ起業者ノ請
求スル全額ヲ一時ニ貸付セズ毎歲実地ノ
費額ヲ貸付シ其事業ノ目的ヲ達セシム

一 **細目** 第卅三款 第廿六款第二ノ豫算ヲ

徴シ其事業壹万圓ヲ以テ十ヶ年間ニ費
消スルモノナレハ毎歲千圓宛十ヶ年間
ニ貸付スヘシ

第四十一條 当社ノ貸付金ハ二種ニ分チ其
一種ハ年賦償還ノ法ヲ設ケ其一種ハ定期
償還ノ法ニ據ル其証書ハ当社成規ノモノ
ヲ徴ス

但シ年賦償還ハ貸付三ヶ年間無利子ノ

一 **細目** 第卅四款 第卅八條第一節第七類

第九類第十類ノ者ニハ年賦貸付ヲ行ハス

一 第卅五款 年賦貸付ハ七ヶ年ヨリ少ナカラス十五ヶ年ヨリ多カラス定期貸付ハ三ヶ月ヨリ少ナカラス一ヶ年ヨリ多カラス但レ定期貸付ハ其期日元利金ヲ償還シ証書ヲ書換ユルニ於テハ一人ニシテ毎歳借用スルモ妨ケナシ

一 第卅六款 年賦貸付金ハ左ノ法ヲ以テ償還セシムヘシ

元金	三ヶ年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年
千四	無利子							

第四十二條 当社ノ資本金ヲ仰キ事業ニ着手セス其資本ヲ他業ニ運轉シ或ハ償還期日ヲ怠惰スル者ハ皆違約ノ法ヲ以テ之ヲ震分ス

一 細目 第卅七款 第四十二條ノ其資本ヲシテ他ノ商法上ニ運轉シ或ハ高利ヲ貪リテ他人ニ貸付スル者ハ其事情發露スルハ立トコロニ元金ノ償還ヲ命シ元金

五割以上ノ罰金ヲ出サシム

一 第卅八款 償還期日ニ怠惰スル者ハ二週間内ハ償金ヲ徴セス若シ二週間ヲ経過スレハ七厘ノ利子ヲ一割ニ罰徴シ三週間怠惰スレハ二割ヲ罰徴シ四週間怠惰スレハ三割ヲ罰徴シ五週間怠惰スレハ償付金ヲ償還セシメ五割ヲ罰徴ス

一 第卅九款 当社ノ資本金ヲ借用シ本人若シ償還スル能ハサレハ無論保証人ヲ解償セシム止ムヲ得サレハ法官ノ處

分ヲ仰ク

第四十三條 当社ノ資力ヲ以テ其事業ノ目的ヲ達シタル事業者ヨリ資金償還ノ後元金百分ノ一分五厘宛十五ヶ年間報酬金トシテ徴集シ以テ当社永續ノ資金トナス

但シ定期償付金ハ元金償還ノ際百分ノ一ヲ徴集ス

第四十四條 当社ニ於テ施行セル業務一切ノ景況及ヒ諸決算ハ毎歳十二月六月兩度ニ之レヲ調成シ常會議ヲ開ヒテ議負ノ檢

查了了之レラ政府ニ具申シ社負ニ廣告

第四十五條 第卅八條第二部ノ業務ハ本支社設置ノ上更ニ規則ヲ設ケテ実行スヘシ

第一号定期貸付金証書雛形

定期借用証書

一金何百何拾何也 利子年七朱明治何年何月何日返済但返済金五分五ヲ報露金上テ上如ノ事

此抵当耕宅地公債証書

此實際賣買正價何百何拾何何

右ハ今般私シノ數名ナレハ共何々ノ事業 其業ヲ

不記入何々ヲ買入 其実物ヲ候ニ付借用仕リ候

事確實也御返済ノ義ハ前記ノ期日無相違返

済可仕候万一其期日ニ至リ相滞リ候節ハ保

証人ニテ引請此度辨償仕リ御社へ少シモ御

損毛相掛申間敷候依テ確証差入置ク事如件

借用人

何府縣何郡區町村
何番地何族籍

年月日 誰 印

取人連借ナレハ數人名ヲ記載ス

保証人

前同断

何

誰印

社長何某殿

第二号年賦貸付金雛形

年賦金借用証書

一金何万何千何百何拾何

利子年七未借用何々年無利子
明治何年何月何日ヨリ何年何月何日迄

此抵当耕宅地公債証書

此實際賣買正價何万何千何百何拾何

右ハ今般私レノ最名ヲナシテ入ハス共何々ノ事業其業ヲ

ス記入ヲ興レ該資本金トシテ借用仕候事確実

也償還ノ義ハ前記ノ通明治何年何月ヨリ年

年元利共何十ヶ年ニ償還シ而シテ其償還満期

後何年何月ヨリ何ヶ年間報納金ヲ此度上納

可仕候萬一右期限内事業ニ失敗ヲ取リ或ハ

借用人死亡等有之候共保証人ニテ引請御社

ヘ少シモ御損毛相掛申間敷候依テ確証差入

置ク事如件

借用人

何府縣何國何郡區町村宿取
何番地族籍

明治何年何月

何誰印

連借ナレ敷人名ヲ記載ス

保証人

前同断

何誰印

抵当鑑定人

前同断

何誰印

社長何某殿

戸長奥印

第五 青森縣

第六 秋田縣

第七 茨城縣

第八 愛知縣

第三條 前條八縣ノ外ハ當分社員ヲ本社ヘ入社セシメ各地方同盟社員ノ増加スルニ從ヒ細第十一條目第十一款ノ旨意ニ適スルニ至リ開設スヘシ

第四條 支社ヲ設立スル能ハサルモ一府縣下一地方一區或ハ一郡ヲ指スニ同盟社員ヲ得分社ヲ設立スルニ足ル時ハ分社ヲ設立シ他日支社ヲ設立スルヲ得テ支社ニ屬セシム

第二章

義捐義集金徵集順序

第五條 義捐義集金ハ本支社設立次日ヨリ徵集ス其順序ハ左ノ如シ第一本支社共直接ニ徵集ス本支社々負遠隔ノ地ニ住スル者ハ豫メ其位置ヲ定メ郡區役所或ハ銀行ニ依頼シ徵集ス其銀行或ハ郡區役所ニ於テ徵集シタルモノヘハ其銀行及ヒ郡區役所ノ請取ヲ渡シ置キ本支社実金查收ノ上領收券及ヒ證券ヲ郵送シ或ハ配布ス

第六條 義捐義集金共本支社共毎月金額ヲ

取調へ其次月三日迄ニ支社ハ本社ニ届ケ
 本社ハ之レヲ農商務省ニ届ケ出ツヘシ
 第七條 第五條第六條ノ順序ヲ以テ義金ヲ
 徴集シ本社ハ三十万又社ハ五万圓ノ額ニ
 至レハ本社ハ之レヲ農商務省ニ届ケ以テ
 同省監督官ノ調査ヲ受ケ其次日ヨリ貸付
 金ヲ行フ其当日ヨリ起算シ義集金主ヘ其
 利子ヲ賦スヘシ支社ハ該地方廳へ届ケ該
 廳監督官ノ調査ヲ受ケ其以下本社ニ同シ
 但シ支社ハ其旨ヲ本社ニ報シ本社ハ之ヲ

農商務省ニ届ケ出ツヘシ

第八條 支社ヲ設立スル能ハサル各地方ハ
 本社ヨリシテ直接地方ノ銀行ニ依頼シ銀
 行ナキ地ハ地方廳ニ依頼シ義金ヲ徴集ス
 其徴集シタル義金ハ一時本社ニ輸入シ或
 ハ其景況ニ依リ續ヒテ支社ヲ設立スルヲ
 得ルト認ムルニ於テハ暫ク其儘銀行ニ預
 ケ置キ綱第十一條目第十一款ニ適合スル
 ニ至テ支社ヲ設立スヘシ

東京雜業社

